



# 土木学会100周年の同胞



磯部 雅彦

土木学会 第102代会長

11月の土木の日の週の国際フォーラム、国際円卓会議、そして11月21日の記念式典、記念祝賀会を控え、土木学会100周年の年のクライマックスを迎えようとしています。

ご承知の通り土木学会は、工学会を母体として1914年11月24日に設立されました。今年土木学会の満100年となります。定時総会は2年目の1915年1月に始まったため、今年6月がちょうど第100回でありました。土木学会誌も1915年から発刊されたのですが、終戦の年1945年は、紙の調達や印刷所の利用がいよいよできなくなり、休刊に追い込まれたため、今年が第99巻となっています。

また、学会長の任期は1年ですから、足かけで今年が101代となるはずですが、ただ、11月末の設立時に就任された初代の古市公威会長が足かけ3年で1916

年まで務められたことにより1代分減りました。また、第5代白石直治会長と第12代中島鋭治会長が任期途中で逝去され、それぞれ受け継いだ廣井勇会長と日下部辨二郎会長が残任期間を務められたために2代分増えました。結果として第102代会長が100周年を迎えることになったのです。

このように、特別な事情によるわずかな例外はあるものの、土木学会がこの100年間を連続と継続して活動し、着実に社会に貢献してきたことはまことに誇るべきことだと思います。

土木学会設立の1914年は第一次世界大戦が勃発した年でもあります。しかし、それだけではありません。宝塚少女歌劇（現在の宝塚歌劇団）の第1回公演があった年でもあります。東京駅の駅舎の建設工事が竣工し、東京駅が開業しました。これにより日本の鉄



土木学会誌創刊号（1915年2月発行）

道網の中心の形が決定されたこと  
になります。また、パナマ運河が  
開通し、太平洋と大西洋を結ぶ航  
路が飛躍的に発展し、その後の世  
界の交通に与えた効果は計り知  
れません。

宝塚歌劇団の背景には阪急電  
鉄があり、小林一三いっさうがいます。東  
京駅舎は辰野金吾の設計による  
ものです。また、パナマ運河の工  
事には唯一の日本人技術者として  
青山士あおやまが従事し、現地でも高く評  
価されるとともに、帰国してから  
の荒川放水路、大津分水路の工  
事を始めとして、後世の人類のた  
めになされた仕事ぶりには驚嘆を  
禁じ得ません。

100年の折り返し点である  
50年前の1964年も東京オリ  
ンピックの開催という特別な年で  
した。日本では国を挙げてオリ  
ンピックの準備にあたりました。オ  
リンピックの開会に合わせて開業  
を成し遂げたのが、東海道新幹線

であり、羽田空港からの首都高速  
道路であり、東京モノレールです。  
東京―大阪間でそれまで6時間30  
分かかっていたのが、いきなり4  
時間、そして翌年には3時間10分  
というのは、まさに夢の超特急で  
した。これには島秀雄の国鉄技師  
長としての獅子奮迅の活躍があり  
ます。

このようにちょうど50年前、  
100年前には国内外で時代を代  
表し象徴する出来事がありました。  
これは土木学会、そして土木学  
会員が広く一般市民の皆さんと話  
題を共有し、その功績を語ること  
を通じて、土木の重要性の認識を  
共有する絶好の機会です。100  
周年記念事業を単なる一過性のお  
祭りにせず、土木が将来に向けて、  
安全安心を向上させ、快適な生活  
環境を保全し、活発な活動を支え  
ながら、持続可能な社会の礎を築  
いていくことを、広く社会に伝え  
ていくにはありませんか。